

青年期の周囲への意識調査 —親子間の愛着との関連—

問題

青年期は社会から見た自分に注意が注がれ、他者からの評価が気になる時期である。他者を意識するという点において、社会心理学におけるパーソナリティ概念の一つに公的自己意識がある。Fenigstein, Scheier, & Buss (1975) は公的自己意識について、一般的に自己を他者に影響を及ぼす社会的対象として認識することであると定義している。辻 (1993) は公的自己意識が高まると、人は外見や行動スタイルを気にするようになることを示している。このことから、公的自己意識の高い人ほど他者の目を気にしがちであるといえる。

菅原 (1984) は Fenigstein et al. (1975) の作成した自意識尺度を参考にしながら、独自の立場から自意識尺度の日本語版を作成した。この尺度は公的自己意識に対応したものだけではなく、私的自己意識に対応するものも含まれている。私的自己意識とは、他者からは観察できないプライベートな自己への注意の焦点づけ傾向と解される (Fenigstein, 1975)。

一方、乳児期の愛着スタイルは、生涯にわたってその個人のパーソナリティの発達に影響を与え続けていくことが知られている (Bowlby, 1973)。また、愛着が不安定な群には、情動調性や対人関係において困難を抱えている者が多いと指摘されている (本多, 2002)。これらのことから、愛着が個人のパーソナリティに影響を与え、その後の対人関係のあり方において重要な位置を占めることがいえる。従って、対人関係における問題は愛着の不安定さや公的自己意識の高まりが関連していると考えられる。

青年期に特徴的な関係としては、恋愛関係と仲間関係が考えられるが、最近では、これらの関係を愛着関係として捉える立場からの研究が増えており、恋愛関係を愛着関係ととらえた研究は、Hazan & Shaver (1987) より始まり、彼らは、恋人との情緒的なきずなの形成過程と、幼少期において子が親に情緒的なきずなを形成するプロセスが類似すると考えた。

菅原 (1975) の作成した自意識尺度は公的自意識だけではなく私的自意識に関する項目も含まれている。今回、他者から観察可能である自己の意識を対象とするので、大学生を対象にした公的自己意識に関する項目のみを扱った尺度を新たに作成することとする。また、本来の自意識尺度は他者に対して自分がどのように振舞うか、行動するかなどについて具体的に表示されていない。そこで今回、具体的な行動を挙げた項目を検討して調査を行うこととする。

目的

本研究では、大学生が周囲の視線をどの程度気にしているのかを測定し、とるべき行動に変化がみられるのかどうかを測定する。また、周囲に対する自己意識の高さと母子間の愛着形成との関連性を検討することを目的とする。

仮説

今回制作した質問紙における仮説として、D 班で独自に作成した質問紙の得点が高ければ、周囲の視線を気にする行動を選択すると考えられ、母子間の愛着が低いと仮定して、

仮説 1： 母子間の愛着が低いと親の視線を気にする行動をとる。

以上の仮説を考える。

方法

1. 調査対象

調査参加者：愛知県内の大学に通う女子大学生 107 名を対象とし、有効回答数 99 名で平均年齢 18.37 歳(SD=1.12)を調査参加者とした。

調査日時・場所：2015 年 6 月 3 日 13 時 20 分から 13 時 30 分まで大学内の教室において実施した。

2. 調査材料

① 周囲の視線に対する自己意識尺度

辻 (1993) は「公的自己意識が高まると、人は外見や行動スタイルを気にするようになる」といっている。青年期の女性が人前に出たときに気にすると考えられる意識的な行動/無意識的な態度/外見の 3 つの因子に基づいて、意識的な行動に関する項目 10 項目、無意識的な態度に関する項目 6 項目、外見に関する項目 6 項目で 5 件法、全 22 項目の質問を作成した。さらに作成した質問項目を恋人/友人/知り合いの 3 つの対象に対して行い、計 66 項目 (22 項目×3 回) を行った。項目内容については表 1 を参照。

表 1 周囲の視線に対する自意識尺度

質問項目

[意識的な行動に関する項目]

声のトーンが変わる

姿勢を正す

★おならができる

相手の話に合わせて

行動を人に合わせる

★人と話しているときもスマホを見る

腕や肩に触れる

★自分の意見をはっきりと伝えることができる

顔色をうかがう

目を見て話す

[無意識的な態度に関する項目]

小食になる

★貧乏ゆすりをする

★大きなあくびをする

髪をよく触る

★素の自分を出せる

★感情を表に出せる

[外見に関する項目]

メイクをしていないと気が済まない

髪型を整えないと気が済まない

アクセサリーをつける

ヒールの靴を履く

ネイルにこだわる

★自分の好きなものを着る

★は逆転項目

- ② 本多潤子（2002）「児童の『母親に対する愛着』測定尺度の作成」より引用した母子の愛着度を測る尺度を表 2 に示した。この尺度は 4 件法で「回避性」を示す 8 項目と「両価性」を示す 7 項目から成り立っており、計 15 項目を行った。

表.2 本多潤子 (2002) 母親に対する愛着測定尺度
質問項目

【回避性】

お母さんのそばにいたいとは思いません
お母さんに相談したいとは思いません
★悲しいときにはお母さんと話をします
★お母さんは私の話をよく聞いてくれます
★お母さんは私の考えを大切にしてくれます
★お母さんは私の気持ちを分かってくれます
お母さんに相談するのは好きではありません
お母さんにはこまったときでも相談しません

【両価性】

お母さんにいい子だと思われているか不安です
お母さんに好かれているかどうか心配です
お母さんにどう思われているのか気にします
お母さんにもっとかまってもらいたいです
私の良い所だけをお母さんに見てほしいです
お母さんのいうことが気になります
お母さんに気に入られるようにしています

★は逆転項目

結果

1. 周囲の視線に対する自意識尺度

「周囲の視線に対する自意識尺度」を「恋人に対する自意識尺度」「友人に対する自意識尺度」「他人に対する自意識尺度」に構成した。

まず、恋人の視線に対する自意識尺度 22 項目の平均値、標準偏差を算出した。そして天井効果およびフロア効果の見られた 3 項目を以降の分析から除外した。

次に残りの 19 項目に対して主因子法による因子分析を行った。固定値の変化は、3.98, 2.74, 1.68, 1.38, 1.15…というものであり、3 因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度 3 因子を仮定して主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった 3 項目を分析から除外した。Promax 回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表 3 に示した。なお、回転前の 3 因子で 16 項目の全分散を説明する割合は 44.29%であった。

表3.恋人の視線に対する自意識尺度の因子分析結果(Promax回転後の因子パターン)

項目	項目内容	I	II	III
行動	恋人の前で相手の話に合わせて	0.806	0.053	-0.224
	恋人の前で行動を人に合わせる	0.601	0.173	-0.041
	恋人の前でメイクをしていないと気が済まない	0.540	-0.059	0.048
	恋人の前で声のトーンが変わる	-0.525	-0.068	0.007
	恋人の前でヒールの靴を履く	0.521	-0.328	0.077
	恋人の前で髪をよく触る	0.500	-0.158	-0.139
	恋人の前で小食になる	0.480	-0.066	0.150
	恋人の前で髪型を整えないと気が済まない	0.456	-0.005	0.080
	恋人の前で顔をうかがう	0.414	0.081	0.314
自己抑制	恋人の前で自分の意見をはっきりと伝えることができる*	0.213	0.777	-0.174
	恋人の前で素の自分を出せる*	0.210	0.685	0.251
	恋人の前で感情を表に出せる*	-0.123	0.625	0.219
	恋人の前で腕や肩に触れる	0.059	-0.421	-0.033
身だしなみ	恋人の前で自分の好きなものを着る*	-0.112	0.274	0.173
	恋人の前で目を見て話す	0.218	-0.244	0.042
	恋人の前で大きなあくびをする*	0.039	-0.139	-0.761
	恋人の前でアクセサリーをつける	0.175	-0.426	0.451
	恋人の前で姿勢を正す	0.248	0.079	0.437
	恋人の前で人と話しているときもスマホを見る*	-0.229	0.190	0.313
因子間相関		I	II	III
	I	1	0.032	0.321
	II	0.032	1	-0.03
	III	0.321	-0.03	1

第1因子は9項目で構成されており、「恋人の前で相手の話に合わせて」「恋人の前でメイクをしていないと気が済まない」などの恋人の前で自らがとる様々な行動に意識の向かう内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「行動」因子と命名した。

第2因子は4項目で構成されており、「恋人の前で自分の意見をはっきりと伝えることができる(*)」「恋人の前で素の自分を出せる(*)」などの恋人に自己の意思表示ができない内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「自己抑制」因子と命名した。

第3因子は3項目から構成されており、「恋人の前で大きなあくびをする(*)」「恋人の前でアクセサリーをつける」などの身だしなみに気をつかう内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「身だしなみ」因子と命名した。

次に友人の視線に対する自意識尺度22項目の平均値、標準偏差を算出した。そして天井効果およびフロア効果の見られた3項目を以降の分析から除外した。残りの19項目に主因子法による因子分析を行った。固定値の変化は、3.92, 3.36, 1.72, 1.48, 1.19…というものであり、3因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度3因子を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった1項目を分析から除外した。Promax回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表4に示した。なお、回転前の3因子で18項目の全分散を説明する割合は48.13%であった。

表4.友人の視線に対する自意識尺度の因子分析結果(Promax回転後の因子パターン)

項目	項目内容	I	II	III	
	友人の前で自分の意見をはっきりと伝えることができる*	0.773	-0.095	0.228	
	友人の前で感情を表に出せる*	0.748	0.164	0.117	
自	友人の前で素の自分を出せる*	0.615	0.046	0.042	
己	友人の前で目を見て話す	-0.540	-0.033	0.229	
抑	友人の前で自分の好きなものを着る*	0.510	-0.051	0.097	
制	友人の前で腕や肩に触れる	-0.432	0.138	0.201	
	友人の前で大きなあくびをする*	-0.403	-0.308	0.269	
	友人の前で髪をよく触る	-0.381	0.122	0.327	
	友人の前で人と話しているときもスマホを見る*	0.183	-0.024	0.021	
オ	友人の前でアクセサリをつける	-0.216	0.749	-0.150	
シ	友人の前でメイクをしていないと気が済まない	0.013	0.663	-0.031	
ヤ	友人の前で姿勢を直す	0.114	0.583	0.006	
レ	友人の前で髪型を整えないと気が済まない	0.184	0.552	0.095	
行	友人の前でヒールの靴を履く	-0.261	0.497	0.092	
動	友人の前で小食になる	0.081	0.415	0.209	
同	友人の前で相手の話に合わせる	-0.015	-0.096	0.877	
調	友人の前で行動を人に合わせる	0.029	0.021	0.724	
行	友人の前で顔をうかがう	0.042	0.297	0.410	
動	友人の前で声のトーンが変わる	0.010	-0.305	-0.377	
	因子間相関	I	II	III	
		I	1	-0.056	0.185
		II	-0.056	1	0.359
		III	0.185	0.359	1

第1因子は8項目で構成されており、「友人の前で自分の意見をはっきりと伝えることができる(*)」「友人の前で感情を表に出せる(*)」などの友人に自己表出することが難しいことを示す内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「自己抑制」因子と命名した。

第2因子は6項目で構成されており、「友人の前でアクセサリをつける」「友人の前でメイクをしていないと気が済まない」などの友人の前でオシャレを気にする行動の内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「オシャレ行動」因子と命名した。

第3因子は4項目から構成されており、「友人の前で相手の話に合わせる」「友人の前で顔をうかがう」などの周りとの同調を図る行動の内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「同調行動」因子と命名した。

他人の視線に対する自意識尺度22項目の平均値、標準偏差を算出した。そして天井効果およびフロア効果の見られた3項目を以降の分析から除外した。残りの19項目に主因子法による因子分析を行った。固定値の変化は、4.06, 3.08, 1.99, 1.45, 1.23…というものであり、3因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度3因子を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった2項目を分析から除外した。Promax回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表5に示した。なお、回転前の3因子で17項目の全分散を説明する割合は47.41%であった。

表5.他人の視線に対する自意識尺度の因子分析結果(Promax回転後の因子パターン)

項目	項目内容	I	II	III	
自己抑制	他人の前で感情を表に出せる*	0.683	0.160	-0.125	
	他人の前で自分の意見をはっきりと伝えることができる*	0.600	0.188	-0.115	
	他人の前で素の自分を出せる*	0.595	0.289	-0.144	
	他人の前で人と話しているときもスマホを見る*	0.594	-0.063	0.050	
	他人の前で大きなあくびをする*	-0.585	0.325	-0.482	
	他人の前で腕や肩に触れる	-0.504	-0.049	-0.012	
	他人の前で髪をよく触る	-0.420	0.252	-0.005	
	他人の前で自分の好きなものを着る*	0.374	-0.188	0.011	
同調行動	他人の前で行動を人に合わせる	0.098	0.860	0.040	
	他人の前で顔をうかがう	0.046	0.710	0.146	
	他人の前で相手の話に合わせて	-0.120	0.607	0.114	
	他人の前で声のトーンが変わる	-0.075	-0.506	0.072	
	他人の前で目を見て話す	-0.258	0.361	0.199	
	他人の前で姿勢を正す	0.190	0.327	0.261	
オシャレ行動	他人の前でメイクをしていないと気が済まない	0.094	0.040	0.710	
	他人の前でヒールの靴を履く	-0.120	0.066	0.697	
	他人の前でアクセサリーをつける	-0.317	0.014	0.579	
	他人の前で髪型を整えないと気が済まない	-0.061	0.237	0.492	
	他人の前で小食になる	0.192	0.211	0.223	
因子間相関		I	II	III	
		I	1	-0.111	-0.129
		II	-0.111	1	0.212
		III	-0.129	0.212	1

第1因子は8項目で構成されており、「他人の前で感情を表に出せる(*)」「他人の前で自分の意見をはっきりと伝えることができる(*)」などの他人に自己表出することが難しいことを示す内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「自己抑制」因子と命名した。

第2因子は5項目で構成されており、「他人の前で行動を人に合わせる」「他人の前で顔をうかがう」などの周りとの同調を図るような行動の内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「同調行動」因子と命名した。

第3因子は4項目から構成されており、「他人の前でメイクをしていないと気が済まない」「他人の前でヒールの靴を履く」などの他人の前でオシャレを気にする内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「オシャレ行動」因子と命名した。

2. 下位尺度間の関連

恋人、友人、他人の3種類の質問紙から構成される周囲の視線に対する自意識尺度のそれぞれの質問紙におけるそれぞれの下位尺度の関連を算出した。まず、恋人の視線に対する自意識尺度の3つの下位尺度に相当する項目の平均値を算出し、「行動」下位尺度得点(平均3.39, SD 0.57)、「自己抑制」下位尺度得点(平均2.53, SD 0.55)、「身だしなみ」(平均3.28, SD 0.54)とした。内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ、「行動」で $\alpha=0.78$ 、「自己抑制」で $\alpha=0.70$ 「身だしなみ」で $\alpha=0.56$ と数値と

して疑問が残るがそのまま考察することにした。恋人の視線に対する自意識尺度間相関を表 6 に示した。3 つの下位尺度のうち「行動」と「身だしなみ」の間でのみ有意な正の相関を示した。

表6.恋人の視線に対する自意識の下位尺度間相関と平均,SD, α 係数

	行動	自己抑制	身だしなみ	平均	SD	α
行動	—	0.118	.240*	3.392	0.575	0.785
自己抑制		—	-0.177	2.535	0.557	0.701
身だしなみ			—	3.286	0.545	0.568

* $p < .05$, ** $p < .01$

残り 2 つの尺度も同様に、友人の視線に対する自意識尺度の 3 つの下位尺度に相当する項目の平均値を算出し、「自己抑制」下位尺度得点 (平均 2.64, SD 0.42)、「オシャレ行動」下位尺度得点 (平均 2.48, SD 0.82)、「同調行動」(平均 3.48, SD 0.68) とした。内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ、「自己抑制」で $\alpha = 0.72$ 、「オシャレ行動」で $\alpha = 0.75$ 、「同調行動」で $\alpha = 0.74$ と数値として疑問が残るがそのまま考察することにした。友人の視線に対する自意識尺度間相関を表 7 に示した。3 つの下位尺度のうち「自己抑制」と「同調行動」の間、「オシャレ行動」と「同調行動」の間の 2 か所で有意な正の相関を示した。

表7.友人の視線に対する自意識の下位尺度間相関と平均,SD, α 係数

	自己抑制	オシャレ行動	同調行動	平均	SD	α
自己抑制	—	0.164	0.249*	2.648	0.422	0.728
オシャレ行動		—	0.198*	2.487	0.820	0.752
同調行動			—	3.482	0.688	0.747

* $p < .05$, ** $p < .01$

他人の視線に対する自意識尺度の 3 つの下位尺度に相当する項目の平均値を算出し、「自己抑制」下位尺度得点 (平均 2.93, SD 0.40)、「同調行動」下位尺度得点 (平均 3.79, SD 3.79)、「オシャレ行動」(平均 2.85, SD 1.01) とした。内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ、「自己抑制」で $\alpha = 0.76$ 、「同調行動」で $\alpha = 0.77$ 、「オシャレ行動」で $\alpha = 0.77$ と数値に疑問が残るがそのまま考察することにした。友人の視線に対する自意識尺度間相関を表 8 に示した。3 つの下位尺度のうち、「同調行動」と「オシャレ行動」の間で有意な正の相関を示した。

表8.他人の視線に対する自意識の下位尺度間相関と平均,SD, α 係数

	自己抑制	同調行動	オシャレ行動	平均	SD	α
自己抑制	—	-0.077	-0.163	2.937	0.403	0.763
同調行動		—	.375**	3.794	0.580	0.772
オシャレ行動			—	2.859	1.017	0.770

* $p < .05$, ** $p < .01$

3. 周囲の視線に対する自己意識尺度と母親に対する愛着測定尺度

周囲の視線に対する自己意識尺度を構成する 3 つの尺度（恋人、友人、他人）の総得点およびそれぞれ 3 つの尺度と母親に対する愛着測定尺度との間の相関を表 9、表 10、表 11 に示した。恋人の視線に対する自己意識尺度の 3 つの下位尺度と母親に対する愛着測定尺度の 2 つの下位尺度のうち、「身だしなみ」と「回避性」において、有意な負の相関を示した。また、友人の視線に対する自己意識尺度の 3 つの下位尺度と母親に対する愛着測定尺度の 2 つの下位尺度のうち、「自己抑制」と「両価性」において、有意な負の相関を示した。そのため周囲の視線を気にする人ほど母親に対する愛着が高い傾向があると言え、周囲の目線を気にする行動を選択する人ほど母子間の愛着が低いという仮説は支持されなかった。

考察

問題にも示した通り、**Bowlby (1973)** は乳児期の愛着スタイルは、生涯にわたってその個人のパーソナリティの発達に影響を与え続けていくことが知られていると指摘した。また、**鯨岡 (1988)** は、最も深く愛を向けた乳児ほど、依存欲求が満たされないときの恨みもまた最も深いと指摘している。このことから、乳児期の愛着形成がその後も個人の成長に伴って影響を与えていくことが知られている。

母親に対する愛着測定尺度の両価性項目と恋人の身だしなみ因子に負の相関がみられた。この結果から、母親に対する愛着が低いと恋人に対して身だしなみに気を遣う傾向があるということが示された。これは、母親との愛着が低いことによって、周囲の人間に愛着を求めるからであると考えられる。**Hazan & Shaver (1988)** は、個人はその成長過程において、幼児期での愛着対象である養育者（主に母親）からしだいに恋愛相手や配偶者へと愛着の対象を移行させていくと指摘していることから、恋人に対し愛着を求める傾向があることがいえる。恋愛対象者に愛着を求める結果、相手にとって一番目に入りやすい身だしなみに気を遣う傾向があるのではないかと考える。

恋人の自己意識尺度と母親の回避性に相関がみられなかった理由として、母親との愛着が高ければ高いほど恋人に愛着を求めないからであると考えられる。**Hazan & Shaver (1987)** は、恋人との情緒的なきずなの形成過程と、幼少期において子が親に情緒的なきずなを形成するプロセスが類似すると考えた。母親との愛着は次第に恋人関係に移行していくことから、恋人との愛着が高ければ母親との愛着が低くなっていくと考えられる。

また、恋人の行動因子、自己抑制因子と母親の両価性に相関がみられなかった。このことから、母親との愛着に対し不安な感情を持っていると恋愛相手においても不安な感情を持つことが予測される。相手に不信感を持たせないようするために自己を抑圧した行動をとると考えられる。

また、友人の自己抑制因子と母親の回避性に負の相関がみられた。母親の愛着が高いと

周囲の視線を気にするという結果になり、仮説 1 は支持されなかった。仮説が支持されなかった理由として、母親の愛着が高いと母親は子どもに対し過干渉になると考えられる。それに伴い、子どもは親に対し逆らうことをせず期待や要望に応えようとする。したがって、親の前で振る舞ってきたように周囲の者に対しても同じように振る舞う行動をとると考えられる。勝田(2009)は親の養育態度と青年の過剰適応傾向との関連を調べた結果、「周囲とうまくやっていく人になってほしいと親から感じている方が、周囲に左右されやすく、自分に対して自信がない傾向にある。つまり、社会でうまくやっていくための手段として、自分を抑えて行動することを学んでいく」と示している。このことから、親の養育態度が子どもの行動選択に影響すると考える。したがって、母親の愛着の高さが養育態度に影響し、子どもの行動に制限を与えているのではないかと考えられる。また、それは友人や他人の前でも同じであると考えられる。

友人、他人のオシャレ行動、同調行動因子と回避性には相関がみられなかった。回避性が低かったことから、母親は理解してくれない、または愛してくれないという傾向がみられるため、自己抑制が強く影響されたと考えられた。そして、両価性は母親を過剰に求め、母親から拒否されることへの不安により左右される。これより、回避性が低いことで、両価性は逆に高まると考えられる。しかしながら、自己抑制は回避性により強く影響され、両価性に至るまで確立されると考えられる。したがって、友人・他人の自己抑制因子に相関が見られなかったと考えられる。また、友人、他人のオシャレ行動、同調行動因子と母親の両価性に相関がみられなかったのは、母子間の関係と周囲との関係に対して、一対一と大多数という人数の差が生じたこととみなされ、そのため、母親と周囲との関連性に欠けると考えられるからであった。

今後の課題として、周囲の視線に対する自意識尺度において、対象となる人物の男女の基準が明確ではなかったことが挙げられ、それぞれ男女別に対応した質問紙を設けるべきであったと考える。また今回、恋人と友人、他人を想定しての意識調査を行ったが、それぞれの対象者に対し同じ質問紙を使用したため、質問内容に無理があったと考えられる。したがって、恋人、友人、他人それぞれ異なった質問項目を検討し、使用することが必要であったと考えられる。

引用文献

- Bowlby (1973). *Attachment and loss: Vol. 2. Separation: Anxiety and anger*. New York: Basic Books (黒田実郎ほか訳 1977 母子関係の理論 2 : 分離不安 岩崎学術出版)
- Fenigstein, A., Scheier, M.F., & Buss, A.H. (1975). Public and private self-consciousness : Assessment and theory. *Journal of Personality and Social Psychology*, 43, 522-527.
- Hazan, C., & Shaver, P. R. (1987). Romantic love conceptualized as an attachment

- process. *Journal of Personality and Social Psychology*, 52, 511-524.
- 本多 潤子 (2002). 児童の「母親に対する愛着」測定尺度の作成 *カウンセリング研究*, 35, 246-255.
- 勝田 萌 (2009). 青年の認知する親の期待・養育態度と過剰適応の関連 *日本教育心理学会総会発表論文集*, 51, 52
- 鯨岡 峻 (1988). 初期母子関係の発達と愛着の問題 *島根大学教育学部紀要*, 22, 27-43.
- 菅原 健介 (1975). 自己意識尺度日本語版作成の試み *心理学研究*, 55, 184-188.
- 辻 平治郎 (1993). 自己意識と他者意識 *北大路書房* pp.149-152.

青年期の周囲への意識調査

本日は調査にご協力いただき、ありがとうございます。

この調査は、大学生が日常生活を営む上でどのように考え、行動するものであるかを調べるために行うものです。正しい答えや、間違った答えというものはありません。思ったとおりに教えてください。

この調査は二つのパートで構成されています。また表紙を合わせて5枚からなっていますので、乱丁・落丁等ありましたら申し出てください。

結果はすべて統計的に分析され、プライバシーは守られますので、思ったままに率直にお答えください。

それぞれの質問をよく読み、すべての質問について教えてください。回答もれのないようにお願いします。

まず、以下の欄を記入してください。

年齢 _____ 歳 学年 _____ 年

集計結果は授業担当教員（安立奈歩）のホームページに公表予定です。興味をもたれた方は <http://www.hs.sugiyama-u.ac.jp/~adachi/> にアクセスして「学生の論文・研究」をご覧ください。

相山女学園大学人間関係学部心理学科 演習 I
D 班

I. まず、あなたが人前でおこなう行動についてお聞かせください。

以下の項目は、**恋愛感情がある相手**に対してあなたが取るとと思われる行動を想定したとき、どの程度当てはまりますか。当てはまるところに○をつけてください。

		あてはまらない ほとんど	あてはまらない あまり	どちらでもない	あてはまる	あてはまる かなり
1. アクセサリーをつける	1	2	3	4	5
2. おならができる	1	2	3	4	5
3. 顔をうかがう	1	2	3	4	5
4. 髪型を整えないと気が済まない	1	2	3	4	5
5. 姿勢を直す	1	2	3	4	5
6. 素の自分を出せる	1	2	3	4	5
7. ネイルにこだわる	1	2	3	4	5
8. ヒールの靴を履く	1	2	3	4	5
9. メイクをしていないと気が済まない	1	2	3	4	5
10. 感情を表に出せる	1	2	3	4	5
11. 行動を人に合わせる	1	2	3	4	5
12. 自分の意見をはっきりと伝えることができる	1	2	3	4	5
13. 自分の好きなものを着る	1	2	3	4	5
14. 小食になる	1	2	3	4	5
15. 人と話しているときもスマホを見る	1	2	3	4	5
16. 声のトーンが変わる	1	2	3	4	5
17. 相手の話に合わせて	1	2	3	4	5
18. 大きなあくびをする	1	2	3	4	5
19. 髪をよく触る	1	2	3	4	5
20. 貧乏ゆすりをする	1	2	3	4	5
21. 目を見て話す	1	2	3	4	5
22. 腕や肩に触れる	1	2	3	4	5

回答もれがないか確認して、次のページへお進みください。

1. 以下の項目は、**特に親しい友人**に対してあなたが取ると思われる行動を想定したとき、どの程度当てはまりますか。当てはまるところに○をつけてください。

		あてはまらない ほとんど	あてはま あまり らない	ど ちら でも ない	あてはまる	あては かなり まる
1. アクセサリーをつける	1	2	3	4	5
2. おならができる	1	2	3	4	5
3. 顔をうかがう	1	2	3	4	5
4. 髪型を整えないと気が済まない	1	2	3	4	5
5. 姿勢を直す	1	2	3	4	5
6. 素の自分を出せる	1	2	3	4	5
7. ネイルにこだわる	1	2	3	4	5
8. ヒールの靴を履く	1	2	3	4	5
9. メイクをしていないと気が済まない	1	2	3	4	5
10. 感情を表に出せる	1	2	3	4	5
11. 行動を人に合わせる	1	2	3	4	5
12. 自分の意見をはっきりと伝えることができる	1	2	3	4	5
13. 自分の好きなものを着る	1	2	3	4	5
14. 小食になる	1	2	3	4	5
15. 人と話しているときもスマホを見る	1	2	3	4	5
16. 声のトーンが変わる	1	2	3	4	5
17. 相手の話に合わせて	1	2	3	4	5
18. 大きなあくびをする	1	2	3	4	5
19. 髪をよく触る	1	2	3	4	5
20. 貧乏ゆすりをする	1	2	3	4	5
21. 目を見て話す	1	2	3	4	5
22. 腕や肩に触れる	1	2	3	4	5

回答もれがないか確認して、次のページへお進みください。

2. 以下の項目は、**顔見知り程度の人物**に対してあなたが取ると思われる行動を想定したとき、どの程度当てはまりますか。当てはまるところに○をつけてください。

		あてはまらない ほとんど	あてはま あまり らない	ど ちら でも ない	あてはまる	あては かなり まる
1. アクセサリーをつける	1	2	3	4	5
2. おならができる	1	2	3	4	5
3. 顔をうかがう	1	2	3	4	5
4. 髪型を整えないと気が済まない	1	2	3	4	5
5. 姿勢を直す	1	2	3	4	5
6. 素の自分を出せる	1	2	3	4	5
7. ネイルにこだわる	1	2	3	4	5
8. ヒールの靴を履く	1	2	3	4	5
9. メイクをしていないと気が済まない	1	2	3	4	5
10. 感情を表に出せる	1	2	3	4	5
11. 行動を人に合わせる	1	2	3	4	5
12. 自分の意見をはっきりと伝えることができる	1	2	3	4	5
13. 自分の好きなものを着る	1	2	3	4	5
14. 小食になる	1	2	3	4	5
15. 人と話しているときもスマホを見る	1	2	3	4	5
16. 声のトーンが変わる	1	2	3	4	5
17. 相手の話に合わせて	1	2	3	4	5
18. 大きなあくびをする	1	2	3	4	5
19. 髪をよく触る	1	2	3	4	5
20. 貧乏ゆすりをする	1	2	3	4	5
21. 目を見て話す	1	2	3	4	5
22. 腕や肩に触れる	1	2	3	4	5

回答もれがないか確認して、次のページへお進みください。

II. 次に、あなたの母親に対して感じていることをお聞かせください。

お母さんについてどう思っていますか。お母さんとどのように付き合っていますか。
次の質問のよくあてはまるところに、ひとつだけ○をつけてください。

		はい	いど えち ばら はか いと	いど えち ばら いか と	いい え
1. お母さんのそばにいたいとは思いません	1	2	3	4
2. お母さんにいい子だと思われるか不安です	1	2	3	4
3. お母さんに相談したいとは思いません	1	2	3	4
4. お母さんに好かれているかどうか心配です	1	2	3	4
5. 悲しいときにはお母さんと話をします	1	2	3	4
6. お母さんにどう思われているのか気にします	1	2	3	4
7. お母さんは私の話をよく聞いてくれます	1	2	3	4
8. お母さんは私の考えを大切にしてくれます	1	2	3	4
9. お母さんにもっとかまってもらいたいです	1	2	3	4
10. 私の良い所だけをお母さんに見てほしいです	1	2	3	4
11. お母さんは私の気持ちを分かってくれます	1	2	3	4
12. お母さんに相談するのは好きではありません	1	2	3	4
13. お母さんのいうことが気になります	1	2	3	4
14. お母さんにはこまったときでも相談しません	1	2	3	4
15. お母さんに気に入られるようにしています	1	2	3	4

これで終わりです。ご協力いただきありがとうございました。